

SDGs～持続可能な取組～



地域とつながり、地域と共に生きる「人」に

御所市立秋津小学校

全校

生活科・総合的な学習の時間等

めあて

質の高い教育の実現にはハード面の充実だけでなく、教育を受ける子どもたち自身の主体的に学びに向き合う姿勢を培うことが大切である。主体的な学びに不可欠な自尊感情の醸成を促し、子ども自身が自分のよさに気付くこと、さらに自分を取り巻く地域の良さを知ることによって学びをより確かにする取組を展開していきたい。地域に住む人の生き様に学び、地域との関わりを深め、自分や地域を誇れる子どもに育てたい

地域教材で地域とつながる学習活動

～ロールモデルとして活躍している「人」とのすてきな出会い～

登下校の見守りをはじめ、児童はいろいろな場面で地域の方にお世話になっている。

「豊かな言語活動を支えてくれる秋津おはなし会の人たち」

学校図書館を拠点として児童に様々な形で「お話」を提供して下さる秋津おはなし会。その成果もあって水曜日の朝読書が定着し、児童の読書量も増えている。また、図書委員会や高学年児童が他学年児童のために、読み聞かせ活動などを自主的に行うようになってきている。おはなし会の人々が作成した「お母ちゃんに会いたい」という戦争疎開児童の聞き取り記録は作成当時の6年生が絵をつけて紙芝居にし、全校集会で上演した。



「農業体験・昔遊び活動を支えてくれる37秋津会の人たち」

田植えから稲刈りまでの体験を通して、米作りの大切さや大変さを学んでいる。また、低学年児童は、おはじきやメンコなどの伝承遊びを体験させてもらっている。



「地域の人々を支えた人・中川義雄さん」

地域にある南和繊維という工場の見学を通して、地域の人々を支えたという方の功績を知るとともに「自分にできること」を考えるきっかけになっている。「すべての人の幸せを願って会社を立ち上げ、今もその願いが受け継がれていることがすごい」、「失敗は成功のチャンスであり、時代を読んで新しいことにチャレンジしていくことの大切さに気づいた」等の感想を子どもたちはもち、自分たちの将来につなげることができた学習となった。



「宝物ファイル」

宝物ファイルは一人に一冊ポケット式のクリアファイルを渡し、自分にとっての宝物と思えるものをどんどんポケットに入れていくというものである。友だちや家族、先生からの言葉、がんばったこと、好きなもの等がファイルにたくさんたまっていくことで自己肯定感が高まることが期待される。宝物ファイルはキャリアパスポートと同様に教室の後ろの棚に置き、子どもがいつでも自分の記録を見て、成長を振り返ることが出来るようにしている。



「のび～るトライ」

のび～るトライは、自分の得意とすることを全校児童の前で発表する取組である。計算が速くてできる、ダンスが得意、クイズを出しますなど、幅広い内容で毎年ほぼすべての児童が全校児童に向けて何らかの発表をしている。発表後、周りから賞賛されることで、どの子も満足した表情を見せられている。



「いいねの木」

各学級で見つけた友だちの良いところをハートの形の紙に記し、それを廊下の木に貼っていく。友だちの良いところを見つけることでその木はどんどん花を咲かせていき、年度末には満開になる。年度末の集会で大きく育った木を体育館でつなぎ合わせ、友だちの良いところが集まった大きな木にしている。

